検査をしてから治療へ――
プライマリーケア（一次医療）の大切さ

ノアザン カイロプラクティック リサーチセンター
院長 前田 隆人氏
大阪市都島区友渕町2－5－1
☎06(6922)6144

前田 隆人氏

カイロプラクティックの卓越した技法により、「頭蓋」を触ることによって椎間板ヘルニアの他、様々な症状の原因を正していくという、画期的な施術があることをご存じだろうか？

アメリカでは学術的にもメジャーな方法だが、それに独自の治療経験を加味し、研究を重ねる『ノアザンカイロプラクティック リサーチセンター』の前田隆人院長に、女優のマッハ文朱さんがインタビュー。何と、驚くようなお話を伺うことができたのである。

頭蓋縫合の微調整で、イネート（自然治癒力）インテリジェンスを引き出す

マッハ 私も健康のことには人一倍関心があって、カイロプラクティックの治療も受けたことがあるのですが、西洋の技術と東洋の技術が互いに生かし合えるもの、というのが理想かなと思っているのです。こちらはレントゲンもちゃんと見ていただけるのですね。

前田 本格的な治療の場合、アバウトな情報だけではだめですからね。他にＭＲＩなども必要なことがあります。

―― 院長の治療に対する姿勢が分かるような気がします。一番メインになさっている治療方法は？

前田 病理的に問題がなければ、骨の構造からアプローチしていくので、それをここでキチンと矯正していきます。

―― 何といっても身体の一番の要ですからね。カイロというのは、アメリカから来たものだそうですね。

前田 戦後、西洋医学、つまり対症療法が発達してきましたが、一方でその限界というか、個人個人が病気になる以前に気をつけることが大切だという考え方も同時に発展してきました。例えば、成人病が生活習慣病というふうにに改められましたよね。これには深い意味があるんですが、今までのように、病気になってから処置をするということではなく、病気になる前に何らかの予防をしましょうということで、アメリカではオルタネイティブメディスン（代替医療）が重視されているんです。

―― 普段からキチンと定期的に検査や処置をしていくと、大病にはなりにくいですね。

前田 そうですね。治療の期間も短期間ですみます。人は、すべてイネートインテリジェンス（自然治癒力）を持っています。身体の不調はアラームであり、警告を脳に伝えているわけです。最初の警告を無視せずに早急に処置を施すことが重要であり、イネートインテリジェンスを最大に引き出すことができると思います。私の場合はカイロプラクティックを基礎に背骨、頭蓋の縫合、ＴＭＪ（顎関節）といったような構造に対してアプローチをしていきます。頭蓋縫合あるいはＴＭＪ（顎関節）は非常に重要で背骨以上に身体全体に影響を与えているんです。

―― そうなんですか。背骨だけではなくそんなところも関係してるんですね。気をつけないと怖いですね。では、それを出来るだけいい方向に戻して、人間が本来持っている治癒力を引き出してあげる、ということですね。

受付の井沢 楠さん／永田 和美さん

前田　そうですね。

―　こちらは、どういった患者さんが多いですか？

前田　多いのは椎間板ヘルニアとか腰の関連で来られる患者さんですね。椎間板というのは、それを挟んでいる椎体一つひとつの部分にプレッシャーがかかって飛び出してくるので大変な痛みを伴う場合があります。重力の問題でもありまして（模型で示しながら）、上からの重力のかかり具合によっていろんな部分に異常が出てくるのです。腰痛で悩んでいる人のほとんどの場合、腰の反りがなくなってきているんですよ。反り過ぎもよくないのですがね。

―　えっ！　反り過ぎなんですよ、私。ぜひ院長に診ていただきたいです。

前田　どうぞ、治療台の方へ。

▲マッハさんの頭痛に対してのアプローチをする前田院長

手術を免れた椎間板ヘルニアの患者

前田　……マッハさん、大分腰に負担がかかってますね。反り過ぎると、重力ラインが変わってくるんです。そのために、腰椎や骨盤のレベルでかなり負担がかかってきますからね。

―　姿勢が良すぎても悪くてもよくないということですか？

前田　良すぎるというか、伸びているから良いというものではないんですよ。重力に耐えられるように正していかないといけない。前弯がきつかったり、逆に伸び過ぎていたりしていると重力の法則に沿わないから身体に負担がかかります。姿勢をチェックしていって、良くないところを正していくことが大切ですね。

―　なるほど。しかし院長の場合、とても分かりやすく説明してくださるので、今こうしてお話を聞いているだけでも、「そうか、治るんだ！」という気持ちになります（笑い）。それがもう、半分治療になっているんでしょうね。陰では相当勉強なさっている方だと思いますけれど。

前田　治療方法もどんどん進歩していますから、人に負けたくない。また、少しでも患者さんを助けてあげられればと、その一心でやっています。色々なトラブルを抱えた患者さんがおられますからね。先日も椎間板ヘルニアの患者さんが駆け込んで来られて、「手術をするしかないらしいが切りたくない」とおっしゃるんです。それではとりあえず三日間来てください、と。

―　三日ですか？

前田　椎間板ヘルニアの場合、生理的な退行変性に伴うディスク（椎間板）自身の器質的問題と、それを挟んでいる椎体（脊椎）のアライメントの不整列によって生じる内圧上昇が問題になる場合とがあると思います。後者の場合、頭蓋のあるポイントにアプローチすることで内圧を下げることが可能で、平均三日位で症状は安定します。その後ステップをふんで、構造へのアプローチ、いわゆるここからが、今後の予防も含めた治療に変わってきます。

―　頭蓋骨で!?　それはすごいことですね。その治療方法を始められたのは、何かキッカケがあったんですか。

前田　どうしてこういう病気が出るのだろうかと、自分で試行錯誤しながらやっていた時期に、あるとても症状の重い患者さんが二人に抱えられて来られたんですね。テーピングぐらいしかすることがなくてどうしようか、と思っていた時に、フッと以前学んだカイロプラクティックのテクニックの中で、クラニアルテクニックを思い出し、頭蓋にアプローチしたんです。

―　それで、いかがだったのですか？

前田　見事に立ち上がることができました。

―　ええっ!?　何か不思議な力というか……。

前田　そのことが、クラニアルに入って行くキッカケだったんです。これほど確実に即効的に結果を見せてくれるテクニックはないと思っています。アメリカでは、もう体系づけられた学問なんです。これからも自分自身の体験などを通してもっともっと研究して行きたいと思っています。

―　今後も痛みに苦しむ患者さんのためにご尽力ください。今日はとても勉強になりました。

前田院長とマッハ文朱さんを真ん中に、スタッフの中林 尊信さん（左）／奥尾 心美さん（右）

❖前田 隆人さん

戌戌（つちのえいぬ）
山羊座・O 型